

第1章

歯を抜く前に知っておくこと やっておくこと

「難抜歯に強くなりたい!」といっても、いきなりD難度、E難度の技を決めることはできない。

まずは順序立ててテクニックを身につけていくこと。

本章では、難抜歯をスムーズに行うために何をマスターしておくべきか、について解説する。基礎をじっくり固めて自信をつけることで、これまで避けていた難抜歯が身近なものになってくる。

「急がば回れ」というではないか。



第2章

難抜歯は段階的に克服していこう

難抜歯に限らず外科処置を成功させる“極意”は、完璧な麻酔にある！ 治療には論より証拠が重要。麻酔が抜群に効くようになったと自覚できた先生は、先に進んでいただきたい。「これまでと変わらないや」とお思いの先生は、もう一度第1章のその項を読み直し、本当に奏効する麻酔ができるまで、繰り返し練習してください。麻酔も抜歯も“習うより慣れる！”しっかりと麻酔を効かせて、恐れずに抜歯をしよう。



第3章

画龍点睛を欠いてはならない (術後処置を完全に)

「画龍点睛（ガリョウテンセイと読むのが正解！）を欠く」という諺がある。昔の中国の話。絵の名人が寺の壁に龍の絵を描いて、最後に瞳を入れると、たちまち本物の龍となって昇天したという故事によるが、最後のわずかな部分に手を加えて全体を立派に完成させることの例えである。本来の目的であるオペを一生懸命やっても、抜きっぱなしで、後始末を粗雑にしては期待どおりの結果は望めない。



第4章

それでも起きる！ 偶発事故とその対処法

偶発事故とは、事前に予測するのが難しい事態が起こることなので、どこまでが確実に推測できるか？ というのが問題となろう。昔なら作用機序が詳しく解明されていなかったために、まったく予測できず、事故が突発的に発生するよう感じたことも、現在では十分に避けられるものも多くなったと考えられる。

だから事故を起こす恐れがあるからと、やたらと施術するのを躊躇するのではなく、逆に数多く経験して“どんな場合にどのような落とし穴があるか？”を実際に知るのが、外科の苦手意識を克服するポイントだと思う。

